

「基地撤去の声」…県議選で知事与党3議席増

6.19 沖縄県民大会に呼応、成功させよう

怒りと悲しみ、いのちと平和のために

6月19日（日） 14:00～15:30

那覇市（セルラースタジアム）—— 東京（国会正門前）

6月5日に投開票された沖縄県議選は辺野古新基地建設反対を掲げる翁長知事の与党が選挙前から三議席増やして過半数を上回る27議席（48議席中）を獲得した。オール沖縄・島ぐるみで闘われている辺野古新基地建設反対という県民の声が改めて明確に示されたものと云える。

この間、沖縄の人々は安倍政権の警視庁機動隊や海上保安官を使った暴力による辺野古新基地建設強行に対して翁長知事を先頭に粘り強く闘い抜いてきた。700日を超えてキャンプシュワブ前では座り込み抗議行動が続いている。高江のヘリパッド建設反対の闘いも続いている。文字どおり一日の休みもなく闘いは続けられ、基地がある故の悲しみと怒りに終止符を打つために闘いが続けられている。このような緊張した状況の最中にも米軍軍属によって女性暴行殺人事件が引き起こされ、米軍人の飲酒運転事故によって沖縄市民が怪我を負う事件も発生した。

5月27日、沖縄県議会は「米海兵隊は沖縄からの撤退を」求める抗議決議を全会一致で採択している。普天間基地がある宜野湾市議会でも決議された。米軍基地撤去を求める大きな憤りが噴出しているのである。

6.19 沖縄県民大会に2人を派遣（東京全労協）

私たちはこうした沖縄の人々の悲しみと怒りをともにして、今こそ沖縄から全ての基地撤去を実現させるために闘う必要がある。闘いの勝利の鍵は大和本土の闘いである。安倍首相は集団的自衛権を行使するための戦争法を成立させてきた。軍事国家への大転換は人権の抑圧と民主主義の破壊をへて独裁国家・警察国家へと突き進むことになる。決して許してはならない。

東京全労協は6.19県民大会に二人を派遣する。また、東京や大阪など全国各地で沖縄に連帯する抗議集会が取り組まれる。仲間に参加を呼びかけよう。